

令和 8 年度 第 1 回

宇部市地域包括支援センター運営協議会

**宇部市 健康福祉部
地域福祉課・高齢福祉課**

＜資料目次＞

1	宇部市地域包括支援センター運営協議会委員名簿	
2	宇部市地域包括支援センター運営協議会設置要綱	資料1 (P3, 4)
3	宇部市地域包括支援センター圏域内設置図及び令和8年度 圏域別人員配置比較一覧表	資料2 (P5, 6)
4	令和7年度宇部市地域包括支援センター事業報告	資料3 (P7～P64)
5	令和7年度宇部市地域包括支援センター収支決算書	資料4 (P65)
6	令和7年度介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント 委託先一覧	資料5 (P66～P76)
7	令和8年度宇部市地域包括支援センター事業計画	資料6 (P77～P127)
8	令和8年度宇部市地域包括支援センター収支予算書	資料7 (P128)

宇部市地域包括支援センター運営協議会設置要綱

(設置)

- 第1条 地域包括支援センター（以下「センター」という。）の適切な運営、公正・中立の確保その他センターの円滑かつ適正な運営を図るため、宇部市地域包括支援センター運営協議会（以下「運営協議会」という。）を設置する。

(構成員)

- 第2条 運営協議会は、次に掲げる者から、センターの公正・中立性を確保する観点から、地域の実情に応じて市長が選定する。なお、構成員は非常勤とする。
- ① 介護サービス及び介護予防サービスに関する事業者及び職能団体
 - ② 介護サービス及び介護予防サービスの利用者、介護保険の被保険者（1号及び2号）
 - ③ 介護保険以外の地域資源や地域における権利擁護、相談事業等を担う関係者
 - ④ 前各号に掲げるもののほか、地域ケアに関する学識経験を有する者

(任期)

- 第3条 構成員の任期は、3年とする。ただし、補欠として選定された構成員は、前任者の残任期間とする。
- 2 構成員は、再任することができる。

(会長)

- 第4条 運営協議会には会長を置く。会長は、構成員の互選により選任する。
- 2 会長に事故がある時は、会長が指名する構成員がその職務を代理する。

(会議)

- 第5条 運営協議会は、会長が招集し、その議長となる。ただし、第4条第1項の規定により、会長を定めるまでの間は、市長が招集する。
- 2 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対し、出席又は資料等の提出を求めることができる。

(所掌事務)

- 第6条 センターの設置等に関する次に掲げる事項の承認に関すること
- ① センターの設置、変更及び廃止並びにセンターの業務の法人への委託又はセンターの業務を委託された法人の変更
 - ② センターの業務を委託された法人による総合事業及び予防給付に係る事業の実施
 - ③ センターが第1号介護予防支援事業及び予防給付に係るマネジメント業務を委託できる居宅介護支援事業所
 - ④ その他運営協議会がセンターの公正・中立性を確保する観点から必要であると判断した事項
- 2 センターの運営に関すること
- ① 運営協議会は、毎年度ごとに、センターより次に掲げる書類の提出を受けるものとする。
 - ア 当該年度の事業計画書及び収支予算書
 - イ 前年度の事業報告書及び収支決算書
 - ウ 前年度のセンターの運営状況に関する評価の結果
 - エ その他運営協議会が必要と認める書類

② 運営協議会は、①イの事業報告書及び①ウの評価結果によるほか、次に掲げる点を勘案しながら市が作成した基準に基づき、定期的に又は必要な時に、事業内容を評価するものとする。

ア センターが作成するケアプランにおいて、正当な理由なく特定の事業者が提供するサービスに偏りがいないか

イ センターにおけるケアプランの作成の過程において、特定の事業者が提供するサービスの利用を不当に誘因していないか

ウ 福祉の総合相談窓口として機能を果たしているか

エ その他運営協議会が地域の実情に応じて必要と判断した事項

3 センターの職員の確保に関すること

運営協議会は、センターの職員を確保するため、必要に応じ、運営協議会の構成員や、地域の関係団体等の間での調整を行う。

4 その他の地域包括ケアに関すること

運営協議会は、地域における介護保険以外のサービス等との連携体制の構築、地域包括支援業務を支える地域資源の開発その他の地域包括ケアに関する事項であって運営協議会が必要と判断した事項を行う。

(守秘義務)

第7条 構成員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(事務局)

第8条 運営協議会の事務局は、宇部市高齢福祉課に置く。

附 則

この要綱は、平成17年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成30年6月1日から施行する。

附 則

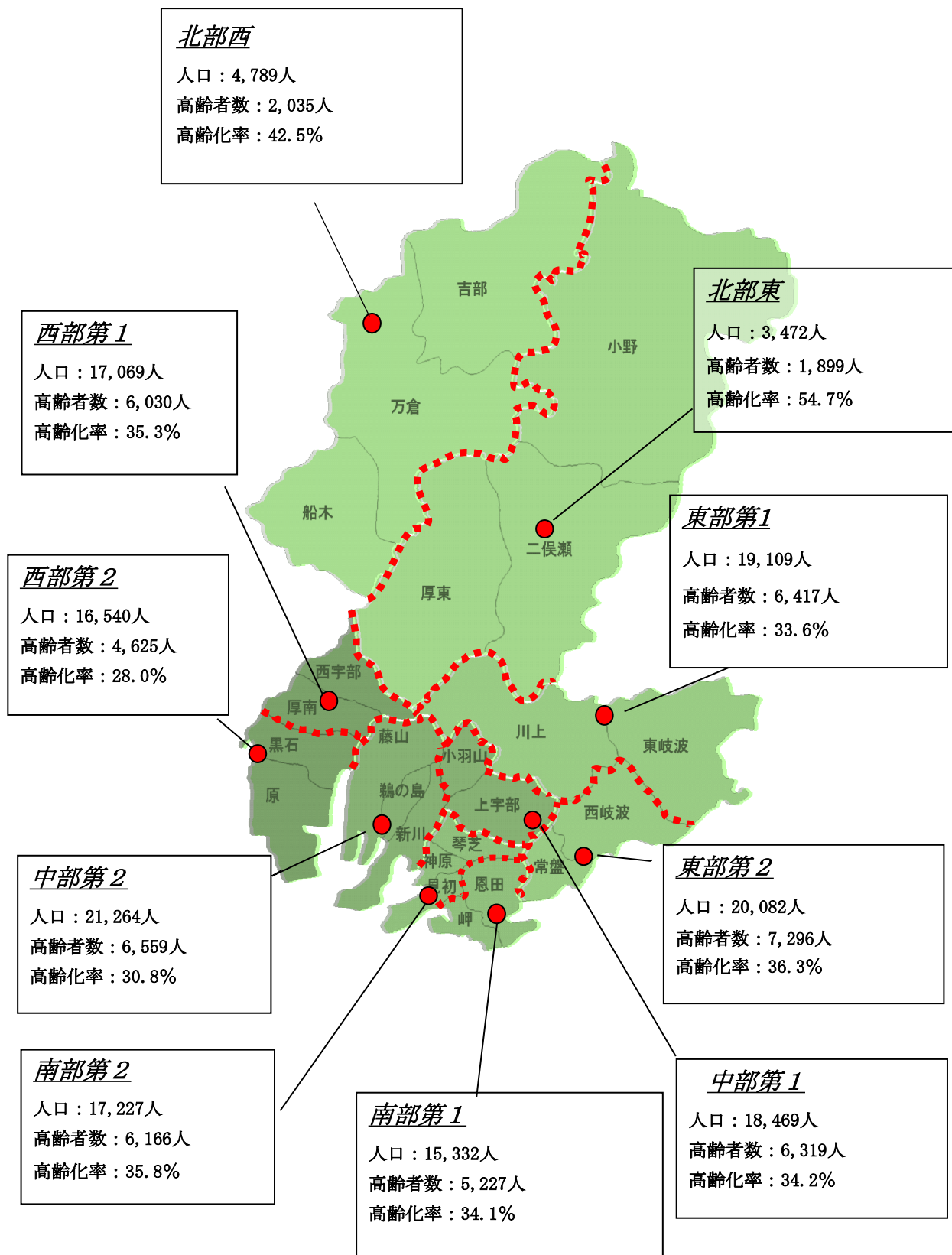
この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和8年6月1日から施行する。

宇部市地域包括支援センター圏域内設置図

令和8.4.1現在



令和8年度（2026年度）圏域別人員配置比較一覧表

圏域	担当圏域	高齢者数	給付管理数	包括的支援事業等の実施に必要な人員	指定介護予防事業担当者
東部	東部第1	6,417 人	3,485 人	保健師1人 社会福祉士1人 主任介護支援専門員1人	2人
	東部第2	7,296 人	4,256 人	保健師1人 社会福祉士1人 主任介護支援専門員1人	2人
西部	西部第1	6,030 人	3,762 人	保健師1人 社会福祉士1人 主任介護支援専門員1人	1人
	西部第2	4,625 人	2,940 人	保健師1人 社会福祉士1人 主任介護支援専門員1人	1人
中部	中部第1	6,319 人	4,395 人	保健師1人 社会福祉士1人 主任介護支援専門員1人	3人
	中部第2	6,559 人	3,943 人	保健師1人 社会福祉士1人	2人
北部東	全域	1,899 人	1,232 人	保健師1人 社会福祉士1人	1人
北部西	全域	2,035 人	1,545 人	保健師1人 社会福祉士1人	1人
南部	南部第1	5,227 人	3,042 人	保健師1人 社会福祉士1人 主任介護支援専門員1人	2人
	南部第2	6,166 人	3,831 人	保健師1人 社会福祉士1人 主任介護支援専門員1人	2人
合計		52,573 人	32,431 人	保健師10人 社会福祉士10人 主任介護支援専門員7人 計27人	18人

（高齢者数及び各配置人員数は令和8年4月1日時点、給付管理数は令和7年度件数）

令和7年度 宇部市地域包括支援センター業務実績報告書

【 1 総合相談支援業務 】

(1) 総合相談の件数及び把握経路

項目		東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
訪 問	新 規	48	97	9	39	25	73	7	16	92	5	411
	延 べ	1, 774	2, 310	1, 288	1, 681	2, 459	946	695	1, 444	1, 094	1, 238	14, 929
電 話	新 規	187	263	141	99	122	224	52	56	174	203	1, 521
	延 べ	3, 421	3, 198	1, 749	1, 413	4, 652	1, 687	1, 553	1, 778	996	885	21, 332
来 所	新 規	69	84	47	65	39	83	10	9	91	29	526
	延 べ	154	194	192	151	282	139	58	71	153	97	1, 491
文書・メール	新 規	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	延 べ	10	0	16	0	0	0	18	25	0	0	69
その他	新 規	3	1	4	8	0	0	0	17	0	0	33
	延 べ	10	2	186	98	0	0	0	262	0	0	558
聴こえに問題があると 感じた件数	新 規	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	延 べ	0	0	0	0	108	0	0	0	0	30	138
合 計	新 規	307	445	202	211	186	380	69	98	357	237	2, 492
	延 べ	5, 369	5, 704	3, 431	3, 343	7, 393	2, 772	2, 324	3, 580	2, 243	2, 220	38, 379

(2) 周知啓発活動

項目		東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
地域包括支援セン ターについて	回数	68	171	29	31	20	11	25	150	11	220	736
	対象者数	1, 100	2, 451	516	753	305	171	336	2, 627	220	3, 353	11, 832
地域づくりに関する こと	回数	2	6	1	74	30	0	53	4	0	48	218
	対象者数	30	86	24	1, 776	1, 339	0	869	167	0	1, 019	5, 310
総合事業について	回数	9	6	0	0	2	0	24	5	3	5	54
	対象者数	126	13	0	0	51	0	442	237	73	84	1, 026
介護予防に関するこ と	回数	6	33	40	101	5	5	46	61	1	64	362
	対象者数	46	299	477	1, 306	54	59	994	736	23	1, 045	5, 039
認知症に関すること	回数	19	43	71	52	13	20	30	55	11	32	346
	対象者数	423	983	401	701	152	126	579	984	168	426	4, 943
高齢者虐待防止に関 すること	回数	0	0	4	0	1	0	0	0	0	33	38
	対象者数	0	0	49	0	7	0	0	0	0	424	480
成年後見制度に関す ること	回数	0	1	7	0	3	0	1	1	1	8	22
	対象者数	0	1	104	0	3	0	13	50	16	49	236
消費者被害に関する こと	回数	0	0	7	0	0	0	3	0	0	39	49
	対象者数	0	0	134	0	0	0	66	0	0	610	810
終活に関すること	回数	0	0	3	0	3	0	0	5	2	24	37
	対象者数	0	0	66	0	51	0	0	99	31	262	509
その他	回数	11	46	142	45	3	2	63	48	32	67	459
	対象者数	291	357	799	492	119	18	898	466	460	1, 015	4, 915
合 計	回数	115	306	304	303	80	38	245	329	61	540	2, 321
	対象者数	2, 016	4, 190	2, 570	5, 028	2, 081	374	4, 197	5, 366	991	8, 287	35, 100

【 2 包括的・継続的ケアマネジメント】

（１）サービス担当者会議

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
サービス担当者会議の出席回数	232	148	143	155	293	92	87	22	177	229	1,578

（２）同行訪問による介護支援専門員等への支援

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
直営担当ケアマネジメント	0	4	0	0	0	0	0	1	6	9	20
委託分ケアマネジメント	1	6	0	0	0	6	0	4	10	76	103
支援困難事例の後方支援	18	11	6	4	7	1	0	4	5	8	64
その他	2	4	7	0	0	7	3	0	0	0	23
合 計	21	25	13	4	7	14	3	9	21	93	210

（３）ケアプラン作成指導を通じた介護支援専門員等への支援

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
介護予防ケアマネジメントのプラン確認数	212	77	274	126	196	262	33	23	124	157	1,484
介護予防ケアマネジメントの評価表確認数	418	444	658	384	491	625	96	103	417	488	4,124
（予防）プラン作成指導を通じたケアマネジメント指導	0	2	0	1	0	2	0	3	0	1	9
（介護）プラン作成指導を通じたケアマネジメント指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	630	523	932	511	687	889	129	129	541	646	5,617

（４）研修会等に関する状況

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
ケアマネジメントの質の向上のための研修会の回数	11	53	14	30	3	4	4	3	19	27	168
多職種の連携に関する研修会や事例検討会、会議等の回数	40	24	16	5	8	8	3	4	29	14	151
合 計	51	77	30	35	11	12	7	7	48	41	319

（５）地域ケア会議

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
地域ケア個別会議の開催回数	4	8	2	1	5	3	5	5	3	3	39
ブロック会議の開催回数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	30
合 計	7	11	5	4	8	6	8	8	6	6	69

（６）他機関との連携

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
退院情報連絡	55	40	83	0	13	9	0	4	10	37	251
非該当への対応	0	0	6	2	1	0	0	0	0	1	10
合 計	55	40	89	2	14	9	0	4	10	38	261

（６）-2 チームオレンジに関する状況

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
チームオレンジ活動数	12	8	12	24	5	7	13	46	16	49	192

【 3 介護予防支援及び介護ケアマネジメント 】

給付管理件数

項目		東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
介護予防支援	実施件数	1,782	2,607	1,657	1,731	2,452	2,269	795	929	1,756	2,246	18,224
	うち委託件数	1,076	1,558	994	736	1,571	1,838	393	233	989	1,072	10,460
介護予防ケアマネジメント	実施件数	1,703	1,649	2,105	1,209	1,943	1,674	437	616	1,286	1,585	14,207
	うち委託件数	581	1,275	1,714	717	1,129	1,335	184	57	907	948	8,847
合 計	実施件数	3,485	4,256	3,762	2,940	4,395	3,943	1,232	1,545	3,042	3,831	32,431
	うち委託件数	1,657	2,833	2,708	1,453	2,700	3,173	577	290	1,896	2,020	19,307

【 4 権利擁護業務 】

(1) 権利擁護に関する対応

項目		東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
法定成年後見制度	新 規	2	0	3	3	0	0	1	6	0	5	20
	延 べ	26	1	4	6	4	0	0	18	0	10	69
	専門機関につながった	3	0	1	2	2	0	1	4	0	7	20
任意後見人制度	新 規	1	0	1	1	0	0	0	0	0	2	5
	延 べ	4	0	1	5	1	0	0	2	0	6	19
	専門機関につながった	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3
地域福祉権利擁護事業	新 規	2	2	3	0	0	1	0	4	1	1	14
	延 べ	78	0	3	0	12	0	0	7	1	3	104
	専門機関につながった	2	0	0	0	2	0	0	2	1	0	7
消費者被害	新 規	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延 べ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	専門機関につながった	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
終活に関すること	新 規	2	0	0	0	0	1	0	2	1	2	8
	延 べ	8	0	0	0	0	1	0	3	1	9	22
	専門機関につながった	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
その他	新 規	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	延 べ	0	2	0	0	3	0	0	0	0	0	5
	専門機関につながった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	新 規	7	4	7	4	0	2	1	12	2	10	49
	延 べ	116	3	8	11	21	1	0	30	2	28	220
	専門機関につながった	5	0	1	3	6	0	1	8	2	7	33

よりそい法律相談

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
法テラス	0	0	3	0	0	0	0	1	0	1	5
法テラス外	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	4
包括	1	0	0	2	4	0	1	1	0	2	11
合 計	1	0	3	4	4	0	1	4	0	3	20

(2) 養護者による高齢者虐待の通報件数

通報経路

項目	東部 1	東部 2	西部 1	西部 2	中部 1	中部 2	北部東	北部西	南部 1	南部 2	合計
高齢者本人	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
虐待者本人	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
家族親族	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3
民生委員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
住民知人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関係機関	1	2	0	0	2	1	0	0	2	5	13
警察	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合 計	1	3	0	0	2	1	0	3	4	8	22

令和 7 年度 宇部市地域包括支援センター事業実施方針

宇部市では、第 9 期宇部市高齢者福祉計画の中で、基本理念（目指すまちの姿）として『高齢者が生きがいを持って自分らしく暮らせる支え合い助け合う地域共生のまち』を掲げています。地域包括支援センターは、上記の基本理念を実現するために、地域の現状・課題を捉え、その課題を解決するために事業を実施することとします。

令和 7 年度本事業を実施するにあたり、地域包括支援センターは下記の重点施策に取り組みます。

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践
・ 高齢者が介護予防について関心を持ち、普段の生活の中で積極的に取り組むことができるよう介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。 ・ 身近な地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、高齢者の健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行い、保健事業と介護予防の一体的な実施を推進する。 ・ 高齢者の身の回りにあるあらゆる資源を活用・提案し、自分らしい活動的な生活を継続できるマネジメントを行う。
2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）
・ 認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、早期の相談や家族の支援体制を強化する。（相談窓口の周知・認知症カフェの開設、開催支援等） ・ 認知症サポーターの養成等により、地域、職域及び学校に対して認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発するとともに地域見守り体制構築の支援を行う。 ・ 地域の特性を鑑み、認知症当事者や家族、プラチナサポーターとともにチームオレンジの活動を推進していく。活動に当たっては、認知症当事者の視点を取り入れる工夫を行う。
3 地域支援体制の強化
・ 地域住民が安心して暮らすための「地域支え合い包括ケアシステム」をさらに進め、分野横断的に連携して相談対応ができる体制づくりを行い、ネットワークの拡大強化を図る。 ・ 民生児童委員や関係機関等とともに高齢者が孤立することのないよう地域での見守り支援を行う。 ・ 生活支援コーディネーターや住民等と協働で地区単位での支え合い会議を開催し、地域課題の把握や解決に向けた協議を行う。
4 アウトリーチ等を通じた継続的支援
・ 複合化・複雑化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、家庭訪問及び同行支援など継続的な支援を行う。 ・ 地域住民の通いの場や支援関係機関等に積極的に出向き、潜在的な課題の早期発見、早期支援に努める。
5 社会参加に向けた支援
・ 社会的孤立等の課題を抱える人に対し、本人の強みを活かすことができる社会資源を提供し、地域で自分らしく生きがいを持って生活できるよう支援する。 ・ 課題解決にあたっては、宇部市社会福祉協議会等地域づくり関係機関と情報共有し、社会資源の創出に向けた取り組みを行う。

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

東部第 1 地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
・地域住民主体のサロンや認知症カフェ、地域住民が集う場所に積極的に参加し包括支援センターの周知啓発、介護予防・健康づくりについて講話や実技を行う。 ・支援チームと協働しスーパーや金融機関にて健康福祉相談室を開催し介護予防や健康づくりの啓発を行う。 ・ほうかつカフェを毎月開催し個別の相談や地域の困りごとを把握する。 ・高齢者が地域の社会資源を活用しながら自分らしい生活が送れるように検討し提案する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	東岐波9回 川上36回	毎月各地区での既存の健康教室(3か所)や健康福祉相談室(3か所)その他新規に出向き出前講座やチラシ配布を行っている。今後も既存事業への参加や出前講座、チラシ配布等の取り組みを継続し、地域への普及啓発を図る。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。（サロン、認知症カフェ等、大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	東岐波19回 川上27回	各地区のサロン(3か所)等に参加し、包括が健康講座やレクリエーションを実施するとともに、フレイルや認知症予防に関する講義を行っている。今後も取り組みを継続し、介護予防および認知症予防の推進を図る。
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	3回	第1回4月15日参加者：保健師・包括・リハ職・CM 第2回7月23日参加者：東部2・保健師・包括・リハ職・CM 第3回は3月11日 参加者：東部2・保健師・包括・リハ職・CM
独自	①健康福祉相談室を東岐波（年2回）、川上（年1～2回）で行う。	1件／年	東岐波8回 川上 7回	東岐波郵便局や東岐波祭り等において健康福祉相談を実施するとともに、川上地区ではスーパーや川上祭り、ふれあいセンターにおいて健康測定会や認知症に関する普及啓発を行った。
	②ほうかつカフェを月1回開催（介護予防と認知症予防を意識した内容）	毎月	12回	毎月第3土曜日にほうかつカフェを開催し、外部講師を招いて介護予防および認知症に関する啓発を行った。今後も毎月継続して開催し、介護予防および認知症予防の普及啓発を推進する。
自己評価	理由			
○	地域サロンやほうかつカフェ、地域住民が集まるイベントにおいて、毎月継続して介護予防の周知・啓発を行っている。サロンでは、介護予防やフレイル予防、認知症予防等に関する理解が深まるよう支援するとともに、参加者の意見を把握し、次回の実施内容に反映している。また、講話や体操等の内容については毎回工夫し、地域住民が興味・関心を持って参加できるよう多様なプログラムを提供している。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
・サロンや自治会、民生委員を対象に認知症への理解を深めていただけるように啓発や講話等を行う。 ・認知症や認知症の疑いのある方が早期に相談できるように地域や民生委員、医療等と連携を図る。 ・認知症カフェやほうかつカフェ等でプラチナサポーターに協力してもらえるよう交流会を開催しチームオレンジの構築の推進をする。 ・既存の認知症カフェに参加継続。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	20回	毎月ほうかつカフェを開催し、当事者への声掛けがしやすい関係づくりを行っている。また、既存の認知症カフェ（隔月）や地域サロンの開催支援を継続して実施している。今後も、認知症カフェの開催支援を継続し、地域での支え合いの体制強化を図る。
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	87人	10月に地域の認知症カフェと合同で認知症講座を実施した。また、12月も認知症当事者と家族を講師として招き、地域啓発イベントを主催した。今後も講座や啓発イベントを継続的に実施し、認知症への理解促進と地域支援体制の強化を図る。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	東岐波18回 川上3回	毎月プラチナサポーターと協働し、ほうかつカフェを開催している。また、他の認知症カフェと情報共有を行い、開催にあたっての協力体制を構築している。今後も他の認知症カフェとの情報共有を図り、地域での取組の充実と協力体制の強化を推進する。
独自	①ほうかつカフェはプラチナサポーターに協力してもらい開催。当事者や家族にも参加してもらい相談対応や支援を行う。	1回	2回	サポーターが講師となり、体操やレクリエーションを実施し、参加者から好評を得た。また、プラチナサポーターのつながりを通じて、当事者や家族の紹介につながっている。今後もプラチナサポーターとの協働による活動を継続し、当事者・家族とのつながりの強化を図る。
自己評価	理由			
○	認知症に関して早期に相談支援ができる体制づくりを目的に、ほうかつカフェの開催や地域サロン・カフェへの参加を通じて、顔の見える関係づくりに努めている。また、民生委員や交番、郵便局等との連携は迅速に行われており、地域支援体制の構築において評価できる状況である。さらに、地域住民との連携強化を図るため、12月には認知症地域啓発イベントを開催し、理解促進とネットワークづくりの推進を行った。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
・東部ブロック会議（地域ケア会議）を開催し医療・保健・福祉関係者と事例検討や意見交換を行い地域の現状や課題を把握する。 ・地域住民や民生委員、福祉委員、社協、支援チーム、何でも相談員と随時、情報共有を行い協働し地域の見守り支援や課題等について把握し検討する。 ・地域の医療機関や薬局、スーパー、コンビニ、美容院等に訪問し顔の見える関係づくりを行い見守りの支援体制を構築する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進。（地域ケア会議）	3回以上／年	3回	東部地区地域ケア会議（東部ブロック会議）3回実施。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う。 （地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	東岐波7回 川上4回	東岐波支え合い会議を4回実施して地域課題の共有と支え合い体制の検討を行った。課題を踏まえて東岐波自主防災会議にも参加。川上地域は連絡会議等に参加し、地域の安全・見守り体制の強化を図った。継続的な協議の場を確保している。
独自	①サロンや地域の行事に積極的に参加し地域住民に受け入れられる関係づくりを継続する。	各地区2回以上／年	東岐波5回 川上3回	毎月のサロン参加に加え、地域イベントにも積極的に参加している。地域祭りや施設祭り、美化・清掃活動等の多団体が参加する行事にも参加し、地域住民や関係団体との交流・連携を図った。今後もサロンや地域イベントへの参加を継続し、多団体との交流機会を通じて地域との関係強化および連携の推進を図る。
自己評価	理由			
○	民生児童委員や地区社会福祉協議会、市民センター、宇部市社会福祉協議会等と定期的に顔を合わせる機会を持ち、関係機関との連携強化に努めている。特に東岐波地区においては、自治会、民生委員、福祉委員と連携し、防災時の避難をテーマとした協議を行い、多数の参加のもと地域のつながりや支援体制について意見交換を実施した。これらの取組を通じて、地域における支え合い体制の強化が図られている。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
・ 行政や支援チームや社協等と定期的に情報共有を図り課題を把握する。 ・ 地域住民や民生委員、福祉委員と顔なじみの関係づくりを行う。 ・ サロンや地域の行事に参加し課題を抱えている人がいないか地域の課題がないか把握する。 ・ 複合的な課題を抱えている世帯については包括支援センターや支援チーム、関係機関と情報共有しながら支援方法を検討する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	35機関	医療・福祉関係機関や民生委員、郵便局、地域サロン等から情報提供を受け、関係機関と連携しながら地域課題への対応や支援につなげている。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	28件	家庭訪問や関係機関との同行支援を実施した。また、サロン活動等の地域において住民から声かけをいただき、相談対応や状況把握につなげた。
独自	①サロンや地域の行事に積極的に参加し地域住民に受け入れられる関係づくりを継続する。	毎月	毎月	毎月、サロンや地域行事において「何でも相談窓口」の周知・PRを行っている。また、川上地区において土曜日に出張相談を開催し、相談機会の拡充を図った。今後も相談機会の充実と早期相談支援の推進を図る。
	②個別訪問し問題等抱えていないか把握する。	1回/月	5回以上/月	同行訪問や見守りを目的とした個別訪問を実施し、状況把握と必要な支援につなげている。今後も同行訪問や個別訪問を継続する。
自己評価		理由		
○	支援チームや民生委員等と同行訪問を行い、対象者と関係機関との関係づくりに取り組んだ。また、相談件数は増加しており、地域住民の相談ニーズが高まっている状況がうかがえる。加えて、地域住民が集う場へ積極的に参加し、相談しやすい関係性の構築に努めるとともに、個別訪問活動を通じて困りごとの把握を行い、早期支援につなげる体制づくりに取り組んでいる。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業・社会的孤立等を抱える人に対し、包括支援センターや支援チーム、関係機関と支援方法について検討し社会参加につながるよう働きかけていく。 ②地域支え合い推進事業・不足している社会資源がないか随時地域や関係機関と情報共有する。新たな地域資源創出に向けて地域と関わっていく。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	15件	支援チーム、民生委員、関係機関から情報提供を受けながら、関係機関との連携を図り支援体制の構築を行った。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	6件	地域サロンへの参加。また、経済的支援および生活支援の紹介を行い、生活の安定に向けた支援を実施した。一方で、就労支援については具体的な連携・導入にはならなかった。
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	4件	出張相談室の開催や認知症啓発イベントを実施し、地域住民への啓発活動を行った。また、災害時における避難所の運営体制や外出・移動手段の確保等について、関係機関・関係者と連携しながら検討・調整を進めた。
自己評価		理由		
○	高齢者とひきこもり状態にある子世帯への支援について、関係機関と連携しながら情報共有を行い、支援の方向性や関わり方について継続的に検討している。特に、ひきこもり状態にある本人や家族の支援拒否があるケースでは介入が難しく、支援導入に課題が残っている。そのため、本人の意思や生活背景に配慮しながら、望む生活の実現に寄り添う姿勢を重視し、無理な介入ではなく関係性の維持を優先している。あわせて、社会参加のきっかけとなる情報提供を継続し、関係性の構築と支援につながる可能性の維持に努めている。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

東部第 2 地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
・地域住民を対象として介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・チラシ配布等） ・地域での住民主体のサロン等の通いの場へ積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。 ・高齢者の身の周りにある、あらゆる資源を活用・提案し、その人らしさを活かした生活のお手伝いをする。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	西岐波地区40回 常盤地区36回	各地区での健康相談室や地域住民主体のサロン、地域活動へ参加し介護予防に関する啓発やチラシ、相談窓口となる包括の広報誌等を配布し説明や実際に健康測定などを行い、参加者自身の実態や介護予防への意識付け、取り組み方法等について働きかけを実施。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。（サロン、認知症カフェ等、大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	西岐波地区41回 常盤地区34回	地域サロンや住民主体の健康教室に加え、サークル活動グループや地域の敬老会等へ参加し、介護予防やフレイル予防についての講話や健康体操等の提供を行い介護予防についての意識づけ等の啓発やアプローチを行う。
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	3回	東部圏域において、サービス事業所やリハ職や医療関係者等と共に事例を通した自立支援型地域ケア会議を実施し、自立支援についての視点の習得や地域資源の理解を深めた。
独自	①地域住民を対象とした健康福祉相談室を開催するなかで、フレイル予防に着眼した支援を行い、保健事業と介護予防の一体的な実施を推進する。	各地区3回以上／年	西岐波地区8回 常盤地区9回	地域のサークル活動や地域住民主体のサロンにおいてフレイル予防を主体とした講話や介護予防体操等を行ったり、その他のサロンにおいてもアンケート形式や測定器を用いての健康チェックを行い、地域住民の介護予防への意識づけを行った。
自己評価		理由		
○		各地区で健康教室を開催や地域住民主体のサロンやサークル活動へ参加し、出前講座や健康教室・健康相談、それにまつわるチラシや包括支援分を配布活用し、介護予防やフレイル予防の普及や啓発を行うと共に、フレイルや介護予防等の支援を行った。		

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
・地域住民が認知症を理解するために、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての理解を深め見守りの重要性を啓発すると共に、行政と連携し小中学校の認知症サポーター養成講座開催への努力をする。 ・認知症高齢者とその家族が安心して暮らせる地域づくりを推進するため、早期の相談や家族の支援体制を強化する。地域拠点において、相談窓口の周知や認知症の方の家族支援者が集まって悩みを話せる認知症カフェ開催の継続を行う。 ・認知症当事者や家族、プラチナサポーターと共にチームオレンジを構築する活動を各地区において実施し、地域団体と共に組織化に取り組む。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	5回	認知症カフェの開催支援を行い、当事者への支援や家族の相談に乗る場を設けたり、地域住民との交流を通して認知症へ対する理解を深めた。
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	433人	学童や小学校での認知症サポーター養成講座を開催し、寸劇等を通して対応方法を一緒に学ぶ時間を共有したり、地域での認知症サポーター養成講座実施し、幅広い世代に対して認知症についての知識や理解を深めた。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	西岐波地区 1件 常盤地区 1件	学童での認知症サポーター養成講座では、寸劇の協力や小学生とのグループワークへの協力をいただいたり、認知症カフェへの参加により、認知症当事者と参加者の橋渡しやサポート役を担ってもらう事が出来た。
独自	①認知症カフェ開催支援	1件	1件	認知症カフェを行い、当事者への支援や家族の相談に乗る場を設けたり、地域住民への理解を持つ場となった。
	②プラチナサポーターの活動支援	2回以上	7回	プラチナサポーターさんの協力をいただき、認知症サポーター養成講座や認知症カフェを開催した。
自己評価	理由			
○	各地区で関係機関や関係者のご理解を頂き、西岐波地区の学童教室で全学年対象に認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の疾患のみならず高齢者についての理解を深め、対応方法などをプラチナサポーターさんと共に学び意見を交換し合ったり、それらの活動に対してプラチナサポーターを始め、関係機関等の連携を図りチームオレンジでの取り組み活動を行った。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
・ 支え合い会議を活用し、地域や各関係団体と連携を図り支援者の早期発見や体制作りに向けた取り組みを行っていく。 ・ 地域ケア個別会議による個別ケースの検討について積極的に取り組み、地域課題や効果的な取り組み、手法等について地域で共有することにより地域全体の支援やケアの向上を図る。 ・ 地域の保健福祉支援チームや社会福祉協議会と連携し、介護予防や健康づくり事業に参加協力する。 ・ 民生委員協議会等、関係者連絡会議へ参加し、関係者との情報共有及び連携を図る。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進。（地域ケア会議）	3回以上／年	3回	東部圏域での地域ケア会議(東部ブロック会議)を3回実施。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う。 （地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	西岐波地区2回 常盤地区14回	常盤地区において、各団体や地域コミュニティ、地域住民と共に、支え合い会議を毎月協働開催し助け合いの組織作りを行った。
独自	①民生委員や医療・福祉関係者との連携や意見交換を積極的に行う。	各地区2回以上／年	西岐波地区5回 常盤地区16回	医療機関との連携会議、民生委員協議会や福祉委員協議会の会合への参加や、支え合い会議の協働開催を行った。
自己評価	理由			
○	地域の組織団体の会合などへ積極的に参加し、支援を必要とする地域住民の早期発見や支援体制作りを行い、必要な際に支援を行ったり、他機関と支え合い会議の協働開催を行い支援体制の創出を行った。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
・ 複合化、複雑化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、家庭訪問及び同行支援など継続的に支援を行う。 ・ 課題解決のために関係機関等へのアウトリーチ活動を実施する。福祉分野に限らず、地域住民や行政・医療・教育・企業等分野を越えたネットワーク作りを進める。 ・ 地域のサロンや健康教室へ参加し、相談・支援窓口としての周知、拡大を図る。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	69機関	課題解決のため関係機関へのアウトリーチ活動を実施した。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	37件	プラン作成されていない住民に対してもプラン作成者同様に、相談支援を実施した。
独自	①地域のサロンや健康教室等へ参加し、ニーズの掘り起こしを行うと共に相談しやすい窓口を設ける。	36回／年	48回	地域で実施されているサロンや健康教室へ月 3 回程度計画的に出向き、相談を受けたり内容によっては後日電話相談や訪問相談が出来るよう調整を図る窓口を設置した。
	②東部第 2 地域包括の広報誌になんでも相談窓口コーナーを設け、周知に努める。	3 回／年	3回	役立つ相談事例、身近な相談事例、他機関に繋いだ事例等を包括新聞に掲載し、相談しやすい「なんでも相談窓口」をPRした。また、配布先の開拓に努めた。
自己評価	理由			
○	課題解決のため各関係機関への積極的なアウトリーチ活動を行うとともに、地域のネットワークづくりをするために、地域サロンでの相談窓口を設けたり福祉分野に限らず地域の様々な関係機関等との連携を図り、誰でも相談し易い場の提供を行った。また、広報誌の配布先の開拓に合わせ東部第 2 地域包括支援センターの周知及び関係づくりに努めた。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業 社会的孤立等の課題を抱える人に対し、本人の強みを活かすことができる社会資源を提供し、地域で自分らしく生きがいを持って生活出来るよう支援する。 ②地域支え合い推進事業 課題解決にあたっては、宇部市社会福祉協議会等地域づくり関係機関と情報共有し、社会資源の創出に向けた取り組みを行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	27件	社会参加に向け実施機関と、支援に向けたネットワークづくりを実施した。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	10件	個別の課題や地域の課題に対し、社会資源の提供や創出を行った。
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	8件	サロンや地域ケア会議、地域支え合い会議等を通して、ニーズの収集や資源の発掘を行った。
独自	①社会資源の把握と情報更新を実施する。	1回／年	1回	把握している社会資源について、情報の更新を行うとともに、地域の防災や社会資源マップ作りに向けた支援を行った。
	②地域の助け合い活動の実施に向けての支援を行う。	15回／年	15回	支え合い会議等を通して新たな助け合い活動の立ち上げ等の支援を行った。
自己評価	理由			
○	他機関と協働し、地域住民の希望を基に個別課題や地域課題を創出し、それに対して支え合い体制づくりを行った。また、社会資源の把握をするために常に情報収集及び整理を行い、地域の防災、社会資源マップづくりに向けた支援を行った。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

西部第 1 地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
○心身の健康状態の維持向上のため、介護予防に対する意識を持てるよう、必要な知識や技術を啓発していく。 ○適切な運動の推進、生活習慣病の予防等の集いの場に出向き、社会的交流を促す活動を実践していく。 ○高齢者の日常的な生活での取り組みを理解し、本人の意欲に基づいた身体活動や社会交流への参加を自身が選択できるよう関係機関で共有する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	厚南14回 西宇部11回	各地区にて定期的な健康福祉相談を開催。地域のイベントや集いの場に出向き、介護予防及び地域包括支援センターの周知を行うことが出来た。 また、広報誌を毎月発行し、健康や介護予防、福祉に関する啓発を行った。 新たな場での相談会も開催した。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。（サロン、認知症カフェ等、大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	厚南5回 西宇部18回	地域住民の意向に沿った内容で健康やフレイル予防、認知症予防、感染に関する講義を実施した。 カフェ開催は継続。また、出張型の集いの場を提供。
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	3回／年	西部圏域プラチナ交流会(R7/10/17)や西部圏域事業所向け研修会(R7/11/6 参加職種：居宅 訪問看護 地域連携室 リハ職 施設)を開催。 西部圏域地域ケア会議（R8/1/15 民生委員 西部圏域事業所他）
独自	①地域住民が自らの健康維持や役割を意識し、意欲、楽しみをもって参加できる場を多機関と協働し提供する。	5回／年	3回／年	「知る」で広がる可能性！仲間と一緒に知識を増やそうをテーマに関係機関と協働し、参加できる場を提供した。 また、既存のサロン等を訪問し健康や保健医療に関することを継続的に啓発している。
自己評価	理由			
○	関係機関と協働し、地域のサロン等で講義形式での活動が開催出来た。 地区別でみると、厚南地区への働きかけがもう少し必要であると感じている。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
○早期に相談・対応が出来るよう、民生・児童福祉委員や医療機関等との連携や集いの場の開催を通じ窓口としての機能を周知していく。 ○認知症への理解を深めてもらえるよう、多世代に向け啓発や講話を行っていく。 ○認知症に関する活動（カフェ、認知症サポーター養成講座等）にプラチナサポーターとして協力してもらえるよう、交流会開催やチームオレンジの構築を図る。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	6回／年	以前より開催しているカフェについては継続開催中。 家族介護者の実体験の談話を通して、家族の想いに触れる機会となった。 新たな取り組みとして地域住民向けにFITサークルを開催し、認知症に関する啓発を行った。
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	185人参加／年	小学校で認知症サポーター養成講座を、学童については昨年に引き続き認知症勉強会を開催した。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	西宇部4件／年 厚南1件／年	チームオレンジ活動報告 11回 （FITカフェ6回、カフェ企画2回 SOS1回 東和苑1回 西部圏域プラチナ交流1回） プラチナサポーターの方は地区を限定せず活動に協力的である。
独自	①地域住民、関係機関との協働で、課題のある方を早期発見し、必要な支援に繋げる。	4回以上／年	都度対応	認知症初期集中支援チーム：6件 他、民生委員や関係機関と協働しながら個別対応を行っている。 認知症に限らず課題のあるケースに取り組んでいる。
	②プラチナサポーターを中心に、カフェ企画から実践までを協働して行う。	3回／年	5回／年	プラチナサポーターさんが主体となって企画、開催当日は進行など流れを全て担当してもらった。
自己評価	理由			
○	継続開催しているFITカフェの内容をプラチナサポーターが企画し当日の実践をしてもらった。 プラチナサポーター個人の得意分野を発揮してもらい、普段とは違う雰囲気となり参加者からも好評であった。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
○地域における支援体制強化推進のため、地域ケア会議（西部ブロック会議）や地域個別ケア会議を開催する。 ○両地区の民生児童委員協議会に参加し、見守り体制や課題の把握を行った上で、今後の支援体制について協議を継続する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	3回以上／年	3回以上／年	西部ブロック会議3回開催。 西部圏域の事業所を対象に勉強会を2回開催。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う。 （地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	厚南4回 西宇部5回	必要時、必要な関係者で集まり、情報交換、共有し、課題軽減に向けた協議を継続した。
独自	①社会福祉協議会、地区担当保健師及び地域支援員、地域包括による三者協議を継続し、地域課題と支援体制作りについて話し合いを継続する。	3回／年	3回／年	それぞれの立場から考える地区課題や社会資源、支援体制について共有した。
自己評価				
○	地域ケア会議を実践し、事例を通じて圏域の課題を関係者で話し合い、連携を図った。 支えあい会議については今後も必要時、必要な関係者で集まり協議を継続していく。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
○複合化・複雑化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、家庭訪問及び同行支援など継続的な支援を行う。 ○地域住民の通いの場や支援関係機関等に積極的に出向き、潜在的な課題の早期発見、早期支援に努める。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	35機関	公的機関 13件 福祉関係機関 8件 その他 14件
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	13件	各地区民生委員・福祉委員 12件 郵便局 1件
独自	①地区民生委員協議会・地域団体の会議への参加	8回／年	14回	地区民生委員協議会 5回 自治会連合会 1回 よりあい処西が丘例会ほか 8回
	②地域のサロン等、集いの場への参加	8回／年	24回	管内サロン・健康教室 15回 新規サロン立ち上げにかかわる参加 6回 敬老会等地域主催行事 3回
自己評価	理由			
○	地域団体、他機関に積極的に出向くように努めた。地区民生委員協議会、地域のサロン・健康教室への参加についてはローテーションを組んで回っていることや新規に3か所のサロン設置があったことから訪問回数が多くなった。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
○社会的孤立等の課題を抱える人に対し、本人の強みを活かすことができる社会資源を提供し、地域で自分らしく生きがいを持って生活できるよう支援する。 ○課題解決にあたっては、宇部市社会福祉協議会等地域づくり関係機関と情報共有し、社会資源の創出に向けた取り組みを行う。 ①福祉総合相談事業 社会的孤立等の課題を抱える人の発見、社会資源の提供など ②地域支え合い推進事業 関係機関と情報共有・協力体制づくり 社会資源の創出など				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	11件	サポセン等半公的機関 6件 民間機関・医療機関 5件
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	23件	個別課題 19件 地域課題 4件
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	3件	新たなサロン創出 3件
独自	①地域資源の情報収集、整理	3回／年	4回	関係機関会議等で管内の民間生活支援サービスの情報収集に努めた。
	②地域資源の活用・創出に向けた関係機関・団体の協議	4回／年	5回	三者協議 3回 きずなの会 1回 よりあい処西が丘 1回
自己評価	理由			
○	アルコール依存症1件、ひきこもり1件について関係機関と連携した就労開始があった。また、社会参加の場として新たなサロン創出が関係機関と協力して3件できた。それ以外、具体的には新たな社会資源の創出に結びついていないが、今後も継続して取り組んでいきたい。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

西部第2地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
・高齢者が介護予防について関心を持ち、普段の生活の中で積極的に取り組むことができるよう介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。 ・自立してサロン等を実施できるように支援し健康寿命の延伸の一助とする。 ・高齢者が自分らしい活動が出来るよう提案し、身の回りにある資源を活かし生活ができるよう継続的に支援する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	黒石地区1回 原地区2回 両地区51回	毎週1回通いの場を継続。 地区祭りでは、子どもから若い世代の方に、包括の周知や介護予防に関する正しい知識を啓発することができた。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。 （サロン、認知症カフェ等、大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	黒石地区89回 原地区60回	健康教室を実施。また、地域主催のサロンを定期的に支援している。
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	3回	今年度、西部圏域プラチナサポーター交流会、西部圏域勉強会等で実施。
自己評価		理由		
○	活動が継続的に実施できており、R8年度は新たに通いの場を増設する予定。 また、複数の職員で対応することで、幅広く地域で活動できるようになった。 自立支援型地域ケア会議を3回実施したが、地域課題に結びついていないと感じている。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
・認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、相談窓口の周知、認知症カフェの継続、認知症サポーターの養成をし、地域や学校・若い世代に対して認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発する。 ・認知症当事者や家族、プラチナサポーターとともにチームオレンジ活動を推進する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	13回	包括主催の認知症カフェの継続している。 地域内の認知症カフェの立ち上げにも携わった。
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	4回 延べ283人	中学校で認知症サポーター養成講座を開催し133人が受講。また、地域の子どもとその親を対象に高齢者疑似体験を実施し35人が受講。 原地区ではプラチナサポーターと協力し、認知症啓発映画の上映会や勉強会を開催した。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	黒石地区2回 原地区5回 両地区16回 延べ329人	黒石）高齢者疑似体験1回35人、美健カフェの開催支援1回5人 原）オレンジランプ打ち合わせ3回31人実施1回70人、認知症学習会1回45人 両地区）認知症カフェの開催12回143人、チームオレンジ交流会（原黒石、厚南4地区）3回35人
自己評価		理由		
◎	プラチナサポーターと協力し、認知症に関する映画上映会や学習会を開催することができた。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
・地域住民が安心して暮らすために、地域住民や関係機関と連携し、相談対応ができる体制づくりを推進していく。 ・民生委員や福祉委員等とともに、高齢者が孤立することのないよう地域での見守り支援を行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	3回以上／年	3回	3回実施し、そのうちの1回は、西部圏域4地区の民生委員と合同地域ケア会議実施した。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う。 （地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	原地区9回 黒石地区12回	地域主催の会議に参加し、地域の課題の把握に努めた。
独自	①支援者（民生児童委員等）が活動しやすくなるための支援	黒石：10回以上 原：10回以上	黒石地区12回 原地区13回	毎月、両地区の民生児童委員協議会の定例会に参加し、支援者が活動しやすくなるように助言・情報交換をしている。原地区では福祉委員研修会にも企画の段階から協働して行った。
自己評価		理由		
○	各種地域団体と協力して、「地域支え合い包括ケアシステム」の推進に向けて取り組んでいる。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
・複雑な課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、関係機関と連携して継続的な支援を行う。 ・地域に積極的に出向き、潜在的な課題の早期発見・早期支援に努める。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	42機関	地域団体へ定期的に入り、活動が継続できるよう支援している。今後も、相談窓口の啓発もあわせ支援していく。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	20件	アウトリーチにより困り事を把握し、継続的に関わることを心掛けている。
自己評価	理由			
○	地域の方々との交流が増えたことで相談いただく機会も増えている。いざという時に頼っていただけるよう丁寧に関わっていきたい。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業 社会的孤立等を抱える人に対し、関係機関と連携して本人の強みを活かすことが出来る社会資源を提案。その人らしく生活できるよう働きかけていく。 ②地域支え合い推進事業 市社会福祉業議会や地域と連携し、新たな資源の創出に繋がる様な取り組みに努める。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	36件／年	相談機関や地域団体にも協力いただくことで、社会参加が持続するよう心掛けている。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	8件／年	個別の課題を地域の方々の協力を得ながら資源とマッチングしている。
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	2件	アウトリーチで関わった地域の方を中心に課題を尋ね一緒に取り組んでいる。
自己評価		理由		
○	地域の方々の思いを聞き検討を重ねることで、新たな地域資源（ふれあい食堂）の創出が出来た。継続発展できるよう引き続き支援していきたい。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

中部第1地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
・地域の要請・地域の方とともに連携し支援を行う。自治会やふれあいセンターなどに出向いて元気に暮らしていただけるような活動を紹介する。 ・介護保険の申請や更新について包括支援センターが地域の窓口という認知度上がっており、連携しながら包括業務を行っている。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	2校区（上宇部／小羽山）各6年回／年	上宇部地域で行われる会議や行事、又人が集う場所に参加した。 上宇部 6月22日 地域見守り活動を行う。 60名位の方が参加をされる。 7月26日上宇部祭り（300名） 8月2日小羽山祭り（150名）に参加をし、地元の方にチラシや体調確認を行った。地元の役員の方も高齢に伴い多くの準備や後片付けが必要とのことで、包括職員も一緒に行事を運営している。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。 （サロン、認知症カフェ等、大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	2校区（上宇部／小羽山）各10回／年	地域でのサロンや住民主体の活動の場に積極的に出向いた。hope 事業については10月より説明をする。地域包括より介護予防やhope のチラシを配布する。 小羽山 喜楽会 西山はつらつ教室 どんぐり山の会 いっきゅうかい 認知症にならないわ 小羽山サロン 18区サロン エイジングカフェ 上宇部 3B体操 ふるさと ひらき集会所 シニアの為の健康教室 ケアーズ カフェなどにてむき市役所の取り組みなどの啓発活動を行う。

基本	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	3回／年	自立支援型地域ケア会議については、3回開催。会議運営などが会議の主旨に外れており、高齢福祉課の助言をいただきながら、修正をしながら3回行うことが出来た。 (R7/9/29 R7.11.17 R8.1.27) 3回目は中部圏域の中部第2と合同で行い、地域の民生委員など役員の方が積極的に会議に参加をしていただき、包括を支えていただいた会議と実感出来た。2回目は上宇部ふれあいセンター、3回目は小羽山ふれあいセンターと担当校区の民生委員や事業所に支えられて行うことが出来た。
独自	①地域の身近な相談窓口としての機能を発揮する。	10回／年	10回／年	地域での会議や行事等への参加、地域の役員宅へ訪問し、地域住民の声を拾い上げる。
自己評価	理由			
○	地域住民に対して、健康教室開催や健康相談窓口の設置した。チラシや広報誌配布などにより介護予防に対する知識や技術の啓発活動を行うことが出来た。自立支援型地域ケア会議についても多くの住民の参加があり背中を押していただいた。地域サロンへの積極的参加。特にhope 卒業後の事業所探しをキャッチすることを目標に置き交流した。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
①認知症カフェを地域の自治会館等で開催し、認知症について学びながら、地域の声を伺いながら支援のあり方を考える。 ②地域住民の皆様や学校関係者との連携で、認知症サポーター養成講座を開催する。 ③チームオレンジの活動に認知症当事者も参加してもらうために、認知症の方が外に出ることを支援する。				
		指標	実績	取組内容
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	上宇部 130件 小羽山 70件	【山口県 みんなで知ろう認知症のパンフレット】を自宅に伺い配布をした。 認知症カフェ るるるカフェのご案内をした。
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	300人以上参加／年	上宇部小学校・小羽山小学校関係者には地域包括としてご挨拶をする。 上宇部小学校へは、九九の教室や授業参観など一緒に取り組んでいる。認知症のお話はしていないが、地域包括の職員を知って頂く努力をした。 7月25日上宇部中学校2年生全員が、高齢者施設の施設見学を通して認知症の方の生活状況など施設の暮らしなどを体験学習した。 令和7年度は、中学生作成の利用者にむけたメッセージポスターを定期的にいただいている。 10月28日 宇部高校の福祉ボランティア部が来られ、高齢者施設を見学をし説明をさせて頂いた。認知症の利用者との交流を行う。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	小羽山・上宇部合同5件／年	認知症当事者への支援と会議への参加、認知症カフェの運営についてチームオレンジの方と一緒に学習をしていた。認知症当事者の方と業務上であるが、その方と一緒に社会活動を行うことについては、包括主催の2月のるるるカフェで民生委員の方が、認知症当事者の方とご家族の参加をしてくださった。
独自	①見守り研修を継続開催			地域と共同で実施している見守り研修の開催を継続し、認知症に関する理解と啓発を地域住民、関係機関が深まるようにする。 上宇部ふれあいセンター6月22日で、見守り研修会をした。
自己評価	理由			
○	認知症理解の為に小・中・高の学校教育現場より要請があれば、施設などの見学や認知症を持った方の暮らしについて講義を行った。地域包括として、事業所への橋渡しや学校での取り組みなどを伺いながら、認知症だけではなく人間の暮らしについて知る機会になればと思っている。若い学生さんには、介護現場の魅力や意義などを伝えて未来の学生さんの職業になっていただければと期待をこめて説明をした。上宇部中学校が定期的にポスターを同法人事業所にプレゼントしてくださっている。上宇部地区の見守り研修は、地域住民の大切な交流の場となり行事になっている。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
①地域ケア会議を開催することで、課題や効果的な取り組みについて検討し、解決できる体制を整えていく。 ②地域住民、生活支援コーディネーター、近隣の介護サービス事業所、地域包括支援センター等で情報交換・共有し、課題解決方法の検討等を行う。				
		指標	実績	取組内容
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	3回以上／年	3回／年	中部地区地域ケア会議(中部ブロック会議)3回実施
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う（地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	上宇部14回／年 小羽山8回／年	上宇部地区においては、上宇部地区社会福祉協議会役員が定期的にあつまり、地域の実情・状況など課題が上がる中で、どのような研修が良いのか等議論を重ねている。小羽山でも関係団体、社会福祉協議会、生活支援コーディネーター等の地域の課題、解決策について情報交換・共有を行いつつ検討する。2か所共 小羽山・上宇部両地区とも世代間で役員の交代が進まないのが課題としてあげられる。
独自	①地域や関係機関との連携体制を継続する。「子ども食堂」などで地域の人との交流を深める。		上宇部12回／年	ふれあいセンター、民生・福祉委員の地区社協会会長等とも、協力・協同で行っている。地域の課題は民生・福祉委員など高齢の方が多く、地域行事に力仕事も多く、包括を中心に応援をし、地域の方に喜ばれているのが現状である。餅つき、そうめん流しなど人員が必要な時は要望もあり応援をしている。
自己評価	理由			
○	地域包括として行政機関や福祉団体との会議に積極的に参加をして、「顔なじみの関係」を作っていくことを何よりも大事にしている。行事を通じて一緒に同じ目標を持って行うことで、相談しやすい関係性を大切にしている。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
①支援関係機関や地域住民との連携体制を構築していく。 ②地域住民への訪問を定期的に行い、抱えている課題を把握していく				
		指標	実績	取組内容
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	30機関／年	地域関係機関、住民との連携・情報共有を行っている。足しげく通うことを目標に早期発見・早期情報提供につながっている。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	39件／年	定期的な訪問を業務中に取り入れ、継続的な訪問ができることをを大切にしている。生活困窮、就労支援等 支援が途切れないように気を配っていることが目標。
独自	①気になるケースの見守り訪問の継続		50件／年	独居高齢者や健康面に不安な方に対する支援について地域の皆様と検討をする。昨年度は孤独死を見守り訪問や居宅介護事業所で支援困難ケースで3件発見をする。内1件は、民生委員の定期的な訪問から安否が不安ということで、高齢福祉課の方と一緒に訪問をさせていただいた。また、1件は定期的な安否確認の見守り訪問でなくなった方を発見した。宇部市役所の高齢福祉課を中心に生活支援課、地域福祉課、保険年金課、障害福祉課などの情報から多くの課を超えて見守りのご相談が増えている。 警察との連携もある。
自己評価	理由			
◎	見守り訪問を定期的に行うことで、複合的なご家族（閉じこもり 障害 就労支援など様々な課題のある方と訪問を通じて継続した支援を目指す。見守りは、小さなあいさつ程度を繰り返す中で、その方の地域での様子や思考などが知れる。直接的な支援にはつながらないが、包括への受け入れは少しずつ強まっている。住民の方から声をかけて欲しいという希望を頂くことも増える。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業 社会的孤立等の課題をかかえる人に対し、本人の強みを活かすことができる社会資源を知る。地域で自分らしく生き甲斐をもって生活出来るように支援を行う。 ②地域支え合い推進事業 宇部市社会福祉協議会等地域づくり関係機関と情報共有し、社会資源の創出に向けた取り組みを行う。				
		指標	実績	取組内容
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	20件／年	障害のある人、引きこもり、孤立した人等参加を促す為に各関係機関に連絡をしている。積極的に関係機関と団体に連携をしている。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	5件／年	地域の社会資源等を活用して、社会的つながりや人との結びつきを考える。hope 事業の卒業後の地域のサロンなどのご紹介をしている。
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	2件／年	上宇部校区は単身のアパートが多く、南風荘の就労Bに通う人がおられる。南風層が利用されるアパートには一般の方も住まれているが、福祉職員が在中されているので安心をされている様子にも見える。ユニークな取り組み 地域連携推進会議、また、交通の便も良いので病院への通院をされている方も多い。アルコール依存症やギャンブル依存症などの方も多い。 地域には、経済困窮者の方も多く連携しながら生活保護につなげたり就労につなげたりすることが出来た。生活支援課や医療機関 障害福祉課との連携を行った。
独自	①包括と関連する関係者（民生委員や自治会長等）と協力し、見守り訪問等を行う		10件／年	地域内の孤立などの課題を共に把握する。学校の見守り訪問をされる方との交流もあり、地域の実情を知ることが出来る。地域の交通事情や生活実態の状況もわかる。
自己評価	理由			
○	地域の中で、自分自身の役割を見つけられない方や生活苦の方など生きることによって不安や悲しみがあつたとしても、人生の最期まで地域で暮らすこと楽しみや喜びなどささやかな生活を支援出来る関係機関として運営を行っている。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

中部第 2 地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
・高齢者が介護予防について関心をもち、普段の生活の中で積極的に取り組むことができるよう介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。 ・身近な地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、高齢者の健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。 ・高齢者の身の回りにあるあらゆる資源を活用・提案し、自分らしい活動的な生活が継続できるよう支援する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	新川：6回／年 鵜の島：6回／年 藤山：7回／年	鵜の島健康相談、藤山健康測定、新川いどばた雑談室、地域のサロン等に出向きチラシ配布。地域サロンへ訪問し蛭子公園健康遊具や健康教室等の情報提供。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。（サロン、認知症カフェ等、大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	新川：11回／年 鵜の島：10回／年 藤山：7回／年	各地域のサロン、認知症カフェ等に出向き介護予防体操、認知症予防の脳トレなど行い、また口腔フレイル予防にてお口の体操、音楽（歌）を楽しみながら脳の活性化を図りながら開催支援を行っている。
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	3回／年	①7/22開催：5事例紹介し、利用者にとって再自立できそうな社会資源についてグループワークを行う。参加者：介護支援専門員、看護師、理学・作業療法士、社会福祉士、SC、相談員 ②10/30開催：2事例（居宅より）目的は①と同じ。1事例についてグループワークを行う。参加者：介護支援専門員、理学療法士、看護師、社会福祉士、相談員、SC ③1/27中部1、中部2合同開催：1事例（中部1より）個別ケースの検討、社会資源について意見交換、hope事業所から取組みについて紹介。参加者：介護支援専門員、理学療法士、相談員、作業療法士、保健師、看護師、SC
独自	①包括主体のサロン開催を継続。	10回以上／年	12回／年	包括サロン毎月第2（火）開催 今年度はシニアすこやかプログラムを取り入れる。鵜の島美術館に展示する作品づくりを実施
自己評価	理由			
○	地域のサロンへ出向き介護予防や認知症予防の取組みを行った。 高齢者が自分らしい活動的な生活が継続できるように、自立支援型地域ケア会議を行い社会資源について意見交換を行った。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
・ 認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、早期の相談や家族の支援体制を強化する。（相談窓口の周知・認知症カフェの開催支援等） ・ 認知症サポーター養成等により、地域、職域及び学校に対して認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発するとともに地域見守り体制構築の支援を行う。 ・ 認知症当事者や家族、プラチナサポーターとともにチームオレンジの活動を推進していく。活動に当たっては、認知症当事者の視点を取り入れる工夫を行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	6回／年	偶数月に開催 認知症当事者、ご家族、地域の方の参加あり、相談に関しては専門職が対応している。 10月は鶉の島小学校コミスクルームにて開催、キッズサポーターや地域サロンの方、地域の方、保護者の方などの参加がありました。今後も年1回は開催していく予定。
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	36人 (市主催51人)	9月の認知症月間、市主催の認知症サポーター養成講座の接し方寸劇を実施。 宇部フロンティア大学看護科1年生対象に認知症サポーター養成講座を実施。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	新川：0件 鶉の島：1件 藤山：1件	認知症カフェや認知症サポーター養成講座にて活動を実施。年1回はキッズサポーターも含めて活動している。 今年度は認知症カフェにハーモニカや落語のボランティアの協力がありました。
独自	①地域の方や民生委員等を対象に認知症について勉強会を行う。	1回以上／年	1回／年	小規模の事業所で認知症について、接し方についての勉強会を実施。
自己評価	理由			
○	認知症カフェは継続して開催ができ地域の方や当事者の参加も少しずつ増えている。年1回の拡大版ではキッズサポーターや地域の方の協力もあり、チームオレンジの輪も大きくなってきている。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
・地域住民が安心して暮らすための「地域支え合い包括ケアシステム」をさらに進め、関係機関と連携して相談対応ができる体制づくりを行う。 ・民生児童委員や関係機関等とともに高齢者が孤立することがないように地域での見守り支援を行う。 ・生活支援コーディネーターや地域住民等と協働で支え合い会議を開催し、地域課題の把握や解決に向けた協議を行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	3回以上／年	3回／年	中部圏域の医師・高齢福祉課・包括との打ち合わせ4回 第1回6/19開催：支援者側からの視点で、他機関（地域関係者を含む）との連携に関する課題の共有、改善策の検討（GW） 第2回：10/2開催：地域関係者と専門機関との連携・情報共有を図る際に繋がって良かった事、悪かった事。今後ネットワークを構築していく為に必要なこと、課題についてはその状況を改善していく為の方策（GW） 第3回目：12/18開催：第2回ブロック会議の振り返りを行い、GWにて前回会議の問題点に対する具体策の検討を行う。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う。 （地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	新川：6回／年 鵜の島：4回／年 藤山：3回／年	新川：民生福祉委員研修会にて講話・いどばた雑談室 鵜の島：福祉委員研修会にて講話・自主防災会総会出席・鵜の島秋祭り、鵜の島市営住宅・住まい方講座 藤山：藤山センターとのネットワークづくり・ラジオ体操・相談室
独自	①地域や関係機関と連携し顔の見える関係づくりを強化、誰でも気軽に相談できる体制をつくる。	各地区1回／年	各地区1回／年	各ふれあいセンターや民生委員との連携を図り相談しやすい体制づくりを行う。
自己評価	理由			
○	地域・関係機関との連携や情報共有を行い、相談しやすい体制づくりを行った。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
・ 複合・複雑化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、家庭訪問・同行支援など継続的な支援を行う。 ・ 地域住民の通いの場・支援関係機関等に積極的に出向き、潜在的な課題の早期発見・早期支援に努め、早急な支援が必要でなくても繋がり続け、何かの時にはSOSが伝えられる関係づくりを行っていく。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	56 機関／年	サロンや関係機関等に出向き役割や窓口の周知を行った。同行訪問の実施、関係構築を図った。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	76件／年	問合せのあった方・地域からの依頼や相談会で把握した方に対して個別訪問を実施、必要な関係機関とも連携を行った。
独自	①サテライト窓口の参加継続	7件／年	11件／年	地域や関係機関と共に窓口の開催を継続を行った。ネットワークも以前より広がった。
自己評価		理由		
○	他機関と同行訪問を行うことで、他機関の役割をより把握することができ、別の支援時にも繋ぐことができた。サテライト窓口を定期的に開催することで、地域のことも少しずつ把握できるようになり、行事参加等の依頼もあった。こちらからも地域へ依頼することもできるようになった。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業 社会的孤立等の課題を抱える人に対し、これまで生きてきた人生背景に寄り添い、本人の強みを活かしながらその人自身が望む暮らしができるよう地域や関係機関と共に支援していく。 ②地域支え合い推進事業 地域の社会資源の再確認・ニーズ把握を行い、宇部市社会福祉協議会等と連携していく。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	66件／年	SCとして地域の情報収集や個別ケースの相談等で連携することができた。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	28件／年	アセスメントにおいて、ご本人の生活歴やパーソナリティを十分に理解するよう心掛けた。地域の資源の情報も把握するよう努めた。
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	6件／年	関係機関と地域の方と協働で相談会を行えた。新たなボランティアの方の把握もでき、行事の参加依頼を行った。
独自	①誰もが参加できる居場所作りの継続	1件／年	4件／年	オレンジカフェ開催・いどばた雑談室・地域のサロンの継続。
自己評価	理由			
○	ひきこもりの方に対して、社会参加には至っていないが関係機関と定期的に訪問し伴走支援が出来ている。関係機関や地域と協力し、オレンジカフェやサロン等継続することができた。そこから地域や支援者等新たな関係構築ができた。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

北部東地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
①圏域内法人と協働で送迎付き介護予防教室を開催し介護予防の普及・啓発に取り組む。 ②地域内サロン・老人クラブ・地域行事等地域住民が集まる場に積極的に参加・関与し健康課題の把握をしフレイル予防の知識の普及に努める。 ③健康や介護予防に関する情報を広報誌や北部圏域で介護の日のイベントを開催して周知・啓発に取り組む。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	各地区 6回以上／年	各サロンや会議に参加し介護予防・健康について(熱中症・ヒートショック等)チラシ配布し口頭説明をしている。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。（サロン、認知症カフェ等大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	厚東11回 二俣瀬29回 小野24回	サロンでの体力測定の手伝いをしたり、グランドゴルフ・ウォーキング等に参加し地域住民の健康に対する意識等の把握に努めている。厚東地区は地域主体で動くという意識が高くサロン以外なかなか介入できない。
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	3回／年	北部圏域で会議をケアマネ・リハ職・歯科医師・医師等が参加し開催。少子高齢化が進み交通の便が悪い地域のため引き続きブロックでも開催予定。
独自	①地域住民を対象とした介護予防教室を送迎付きで開催する。	圏域内全域対象に10回/年	10回／年	圏域全体にチラシ配布し介護予防教室を送迎付きで開催。6～3月で計10回開催。R8年度も開催予定。
	②広報誌やチラシで介護予防の知識の普及啓発を行い、北部圏域全体で介護イベントを行う。	広報誌2回/年 イベント1回/年	広報誌2回 介護の日のイベント1回	広報誌は年に2回配布。北部圏域で介護の日のイベントを開催。来年度同様に開催予定。
自己評価	理由			
○	介護予防教室を開催し地域行事やサロンに出向き介護予防の普及・啓発をしているが地域差は感じる。地域主体で活発に活動されている地域は住民の主体性に任せているが大切な情報は正しく伝わるようにしている。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
①認知症当事者や家族の支援体制が整えられるように、民生委員・福祉委員・地域団体や行政機関と連携し地域全体での見守り体制の構築・強化を進める。 ②認知症への理解や早期受診・見守りの大切さを周知啓発するため各地区において児童生徒から高齢者まで各世代を対象に認知症サポーター養成講座を開催する。 ③地域の人が集まる場所に積極的に参加し認知症の早期発見や介護相談を受けられるような場づくりを推進する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	認知症カフェ開催5回・開催支援4回	包括の主催の認知症カフェを小野3回・二俣瀬2回計5回開催できた。地域内法人の開催支援もできたが今年度で中止になった。今後は厚東でも開催できるようにアプローチしていく。
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	43人／年	厚東地区で43名参加でSOS模擬訓練開催した。認知症サポーター養成講座の開催の声かけはしていたが開催できていない。R8年度は開催できるように声掛けをしている。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	厚東1回 二俣瀬2回 小野3回	プラチナサポーターとして認知症カフェ開催の協力をしてもらい地域の方に声掛けをしていただいた。また反省会時に今後活動について意見を聞いている。
独自	①認知症当時や家族が集い話せる場づくりを身近な場所で開催する。	3回／年	認知症カフェ開催5回・開催支援4回	認知症カフェを二俣瀬・小野で開催しているが厚東では開催できていない。圏域内法人が北部全体で開催時は開催支援をした。
	②認知症についての相談窓口として包括の役割を広報誌や各サロン・会議で周知していく。	2回／年	広報誌2回 サロンや行事参加各地区10回以上	広報誌を2回発行し様々な地域行事やサロンに参加し包括の役割を地域住民に周知している。
自己評価	理由			
△	様々なところに声掛けをしたが認知症サポーター養成講座は開催できていない。SOS模擬訓練1回のみ実施。また認知症カフェも地域によって差があり、1地区は地区としては開催できていないが北部全域の開催時に参加されている方はいる。今後各地区で開催できるように働きかけていくが会場までの交通手段が課題となる。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
①各地区の地域福祉に関わる団体と連携・協働しながら誰もが住み慣れた地域で安心・安全に暮らしていけるように地域課題の把握やその解決に向けた取り組み、様々な団体と協力しながら必要な支援を実施しSCと社会資源を発掘していく。 ②少子高齢化が著しく人口減少が進む地域のため地域住民だけでなく地域内事業所・法人と連携協力しながら地域全体で解決にむけた体制づくりを推進していく。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	3回以上／年	3回／年	北部圏域で3回開催。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う。 （地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	各地区3回以上／年	地域の民児協・支え合い会議・行事等に参加している。
独自	①地域課題把握のために積極的にサロンや会議に参加し関係を強化する。	10回以上／年	10回以上／年	サロンや会議に積極的に参加し関係づくりをしている。
自己評価				
理由				
○	支え合い会議・民児協会議・様々な地区行事に参加し情報共有ができ連携体制の構築ができた。また地域課題を把握し解決に向けて市社協や地域内法人とも連携ができた。今後も人口減少が進み少子高齢化していきさらなる問題にも対応できるように関係を強化していきたい。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
地域住民の通いの場や支援機関等の関係機関に積極的に向かい、民生委員・福祉委員、地域団体のリーダー、行政機関や事業所等との連携・協働を通じて、複合化・複雑化した課題を抱えているために必要な支援が届いていない人の早期発見に努め、信頼関係を構築しながら継続的な伴走支援を行っていく。特に自ら進んで支援に繋がることが難しい人には丁寧に働きかけながら寄り添った支援を行っていく。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	62機関	行政機関、福祉関係団体、店舗、事業所など地域住民と関わりのある場所を定期的に訪問し、気になる住民の情報を収集した。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	17件	要支援者に対して、民生委員・市民センター・事業所等から提供された情報をもとに、直ちに訪問する等の相談支援を実施した。
独自	①出張福祉なんでも相談窓口（サテライト窓口）を開催する	36件／年	37件	担当3地区のふれあいセンターで毎月定期的に相談窓口を実施した。また、健康増進課や交通政策課と協働した相談会を併せて5回実施した。
	②地域住民の生の声を把握するためサロンに参加する	12件／年	40件	毎月サロンを2か所以上訪問するよう努めた。
自己評価	理由			
○	北部東圏域は中山間地域のため、周囲に民家がなく孤立した戸建て住宅で、近隣住民による相互扶助が難しい世帯が多く存在する。そのため支援が必要な人の発見が困難なことが課題としてあげられるため、地域の福祉関係者・団体等を訪問し信頼関係を築き情報収集に努めた。今後も複合化・複雑化した課題を抱えているが必要な支援が届いていない人の早期発見と継続的な伴走支援に繋がるよう取り組む。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業 社会的に孤立している人や家族に寄り添いながらニーズや課題を把握し、本人の強みを活かせる社会資源とのマッチングや支援メニューを提供し、社会とのつながりを回復できる見取り図を考えて、地域で自分らしく生きがいを持って生活できるよう支援を進めていく。特に長く社会との繋がりが途切れている人に対しては、早急な課題解決を行わず、段階的で時間をかけた支援を行っていく。 ②地域支え合い推進事業 既存の制度・サービスでは本人の強みやニーズに対応できない場合に社会福祉協議会や地域の関係機関等と連携協働して新たな社会資源の開拓を行う。 また、社会資源の充実を図るため、支え合いの取組や近隣住民の互助について、さまざまな機会を通じて地域住民の意識の高揚を図っていく。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	16件	障害のある人、ひきこもりの人、孤立した人等の社会参加に向け、関係機関や民生委員と連携した。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	11件	関係機関や民生委員と連携協働しながら、要支援者の社会参加を目指し支援した。
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	5件	集いの場が少ないことが課題の地区で、関係機関・地区社協・自治会等と連携し、新たな集いの場の設立に向けて協議した。
独自	①社会的孤立等の課題を抱える人に対し、地域で生きがいを持って生活できるように関係機関と連携協働した件数	3件／年	4件	障害のある人やひきこもりの人など課題を抱える人について、重層的支援会議やケース会議を実施し課題解決に向けて協議した。
	②新たに創出した社会資源の件数	1件／年	4件	住民の声から、健康麻雀体験会の開催を経て、健康麻雀教室が設立された。支え合い会議からデマンドバスでの買物体験会を実施できた。
自己評価	理由			
○	北部東圏域は、人口の著しい減少、少子高齢化の急速な進展等により集落の機能が低下した中山間地域であるため、支援が必要な人を発見しても本人のニーズに合う利用できる資源がない場合が多い。そのため住民の声を聞き取り、関係機関等と連携協働し『居場所づくり』に焦点を当て新たな社会資源を創出することができた。今後も社会資源の拡充を目指し取り組む。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

北部西地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
・地域住民が介護予防について、興味関心が持てるように正しい知識や技術の普及・啓発を行う。 ・地区社協と連携し、地域のサロンや集いの場に積極的に参加できる体制づくりとそれぞれの健康課題を把握してフレイルや認知症予防の支援を行う。 ・自立支援型地域ケア会議では、リハ職をはじめ多職種と連携し、自分らしい生活が継続できるよう多様な資源を提供する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	吉部12回 万倉13回 船木20回	包括かわら版3回発行、介護の日のイベント、地区敬老会全圏域対象に普及啓発を行った。ほか、集いの場にて健康教室を行った。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。（サロン、認知症カフェ等、大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	吉部11回 万倉30回 船木57回	吉部地区は今年度2か所新たな集いの場が立ち上がり、住民主体で積極的なフレイル予防への取り組みが行えた。船木、万倉地区においても既存の集い場に関与し、支援を行った。
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	3回／年	北部圏域全体にて、7/23と10/22、1/21に自立支援型地域ケア会議を開催。リハ職を中心にケアマネや事業所とその人らしい生活を継続するために活気的な意見交換ができた。
独自	①吉部介護予防教室の開催	10回/年以上	12回／年	包括主催で毎月第4金曜日に開催。参加者と一緒に年間企画を考えて行っている。
	②包括かわら版を発行し、介護予防・認知症予防の情報提供を行う。	3回/年以上	3回／年	8月と11月、2月に発行し、介護予防や認知症に関すること、測定会などの情報提供を行った。
自己評価	理由			
◎	今年度は吉部地区において、2か所のサロンの立ち上げに関与でき、1か所はhopeの卒業後の資源になりうる。また、既存の集いの場や地域住民への周知活動も計画通り進めることができています。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
・全世代の地域住民に対し、認知症に関する正しい知識と認知症の人に関する正しい理解が深められるように周知啓発を行う。 ・認知症当事者やプラチナサポーターが中心となり、認知症の人が生きがいや希望を持って暮らすことができるように、認知症当事者の視点を取り入れながら活動を推進する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	8回／年	認知症カフェやSOS模擬訓練において、認知症への理解や家族の対応、家族同士の交流で支援を行うことができた。また、家族介護支援事業にもつなげることができた。
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	66名	船木小5.6年生40名、楠中学校1年生生徒と先生の26名に認知症サポーター養成講座を開催した。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	吉部3件 万倉3件 船木4件	吉部キャンプ場における活動は全校区の知症当事者中心を対象とし、他は集いの場を中心にSOS模擬訓練も含め、当事者の視点での活動を行った。
独自	①拠点型チームオレンジUOQの開催	10回／年	12回／年	毎月第4金曜日に開催。当事者、プラチナサポーター、推進員限定の開催で、当事者が自ら発信できる環境づくりを行った。
	②認知症の方やプラチナサポーターとのイベント開催	3回以上／年	3回／年	吉部キャンプ場でのイベントはプラチナサポーターや当事者で企画打ち合わせを行った。小学生との芋掘りと稲刈りは当事者の方と小学生の交流ができた。
自己評価	理由			
◎	認知症カフェでは家族支援を、拠点型UOQでは今年度から認知症当事者が発信できる環境づくりを設定することができ、当事者の笑顔がみられている。そのほかプラチナサポーターや地域住民と連携し認知症の啓発を行うことができた。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
・圏域内の事業所や地域住民とのネットワークをさらに強化し、地域住民が安心して暮らし続けられるように「地域支え合い包括ケアシステム」を構築していく。 ・高齢者が孤立化することのないように、民生委員や関係機関と連携し、地域での見守り体制支援を行う。 ・地域住民と地域課題の把握や解決に向け、協議できるようにアプローチする。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	3回以上／年	3回	北部ブロック会議の3回行い、事業所や民生委員と連携ができた。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う。 （地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	船木13回 万倉8回 吉部5回	船木：地域の高齢者（含む認知症）の見守りネットワーク作りについて協議。 万倉：認知症高齢者や健康づくりについての協議。 吉部：子ども食堂に認知症高齢者の理解と参加のために協議
独自	①民生委員との連携強化	3回以上／年	9回／年	北部ブロック会議の1回は民生委員とのネットワーク作りのため、防災に関する協議を行った。また、民生委員連絡業議会に5回参加し、情報共有できる体制を作った。
	②地域ケア個別会議の開催	2件以上／年	2件／年	困難事例に関して2件、地域住民と協議した。
自己評価	理由			
○	今年度からは吉部の地域会議にも参加することができた。また、民生委員の会議にも定期的に参加し、情報共有ができています。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
・商業施設等人が集まりやすい場所出張相談窓口を継続して開催し、今後も開催の周知を行い参加率を挙げ、地域に根差した相談窓口になれることを目指す。 ・民生委員や地域住民、支援機関と連携し、情報収集やネットワークの構築を行う。支援が届いていない人の把握に努め、関係機関と連絡を取りながら継続支援を行う。 ・包括支援センター職員等と情報共有し、重層的支援が必要な家庭への訪問、同行支援等を行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	39機関	事業所や病院、介護タクシー、地域のボランティア等と積極的に連絡を取り、支援を行った。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	45件／年	山口銀行船木支店で年金支給日に相談会を実施し、45件の相談に対応した。
独自	①出張相談窓口の開催	12件／年	12件／年	山口銀行船木支店で年金支給日に相談会を実施。また、こもれびの郷湯上りホールにて奇数月の第3火曜日に相談会、講話の開催と相談会を行った。
自己評価	理由			
○	積極的に、集いの場や事業所からの情報収集をすることができた。また、毎月行っている山口銀行船木支店やこもれびの郷の相談会では、なじみの関係が構築し、相談しやすい環境になっている。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業 社会的孤立等複合的課題を抱える人に対し、包括支援センターや支援チーム、関係機関と支援方法について検討し、本人の生きがいとなるよう社会参加へ繋げていく。 ②地域支え合い推進事業 不足している社会資源がないか地域支えあい会議等を通じて情報収集し、地域や関係機関等と新たな創出に向けて取り組みを行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	18件／年	地域のサロンや地域のボランティア、イベント、まちなか保健室、市の制度などと連携し、社会参加への取り組みを行った。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	5件／年	イベントへの絵画出展、草刈り、認知症高齢者の居場所作りとして子ども食堂への参加につながることができた。
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	2件／年	吉部で新たなサロンの立ち上げ2件に関与した。
独自	①社会資源マップ作製			圏域内のサービス事業所とサロンのマップを作成した。（デジタルマップも作成）
自己評価	理由			
○	介護の日のイベントで絵画の得意な方に対しアプローチし展示が実現できた。長年の課題であった資源マップを作製することができた。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

南部第1地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
・高齢者が介護予防についての関心を持ち、普段の生活の中で積極的に取り組むことができるよう介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。 ・身近な地域でのサロン等の地域住民全体の通いの場に関与し、高齢者の健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼して支援を行い、保健事業と介護予防の一体的な実施を推進する。 ・高齢者の身の回りにあるあらゆる資源を活用し、自分らしい活動的な生活を継続できるケアマネジメントを行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	恩田13回 岬21回	恩田ふれあいセンターと岬ふれあいセンター相談会は宇部市健康増進課保健師と一緒に開催（血圧、骨密度、体組成測定など）毎回20～30名の参加。則貞郵便局相談会は2か月に一回。フジグラン相談会は今年度から宇部市健康増進課保健師と開催。市営住宅住民説明会や健康相談会での啓発活動を行った。
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。（サロン、認知症カフェ等大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	恩田46回 岬4回	地域でのサロンに出向き包括職員が介護予防や健康作りに関する話をしたり外部講師を招いて講義や体操などの企画をしている。
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	2回	恩田地域支え会議で、庭木の剪定で困っている人の対応を協議。南部ブロック会議にて「高齢者に必要な資源の情報交換・新しい資源について意見交換」
独自	①サービスにつながらないケースや総合相談業務等で把握したケースについて個別アプローチを行う。	4件	30件	サービスにつながらないケースに見守り支援や電話対応、来所対応を行っている。
自己評価	理由			
△	自立支援型地域ケア会議の開催回数が指標に届かなかった。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
・ 認知症になっても、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられるよう、早期の相談や家族の支援体制を強化する。（相談窓口の周知・認知症カフェの開設・開催支援等） ・ 認知症サポーターの養成等により、地域、職域及び学校に対して認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発するとともに地域見守り体制構築の支援を行う。 ・ 地域の特性を鑑み、認知症当事者や家族、プラチナサポーターとともにチームオレンジの活動を推進していく。活動に当たっては、認知症当事者の視点を取り入れる工夫を行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	18回	恩田・岬で一か所ずつ開催。恩田は月に一度。岬は3か月に一度開催。不定期だが認知症家族の交流会を開催（6月11月,11月27日）
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	58人	認知症サポーター養成講座1回。恩田オレンジキッズサポーター向けに認知症について講話。岬小学校で認知症サポーター養成講座開催。
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	恩田4件 岬3件	認知症カフェや周知啓発活動についてプラチナサポーターと一緒に企画。プラチナサポーター交流会で認知症当事者に視点についてグループワークで話し合った。認知症カフェの内容は当事者の意向を聞き、取り入れた。当事者の意向を聞き小学校校歌を子供たちに披露してもらった。認知症介護者家族の会開催。
独自	①「恩田やさしさ育みワークショップ」に参加して高齢者と児童とが触れ合える企画を検討し、子ども達に高齢者や認知症に対する理解を広める。	3回／年	10回	恩田小学校児童対象の「やさしさ育みチーム」の一員となり子供に対して認知症の理解を深める活動。子供と一緒に劇のシナリオを考えSOS模擬訓練をおこなった。
自己評価	理由			
○	新たな認知症カフェの設立はできていないが、認知症家族の交流会が定着してきている。岬小学校で認知症サポーター小学生養成講座を開催した。。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
・地域住民が安心して暮らすための「地域支え合い会議包括ケアシステム」を更に進め、分野横断的に連携して相談対応ができる体制づくりを行い、ネットワークの拡大強化を図る。 ・民生児童委員や関係機関等とともに高齢者が孤立することのないよう地域での見守り支援を行い・つながりを広めていく。 ・生活支援コーディネーターや住民等と協働で地区単位での支え合い会議を開催し、地域課題の把握や課題解決に向けた協議を行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	3回以上／年	3回	南部ブロック会議（6月・10月、2月） 「家族支援」「身寄りのない高齢者支援」「高齢者に必要な資源の情報交換・新しい資源について意見交換」をテーマに開催。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う。 （地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	恩田9回 岬6回	恩田支え合い会議2か月に一度開催。 各地区の文化祭に参加。恩田、岬地区民生児童委員定例会へ参加。地域ケア会議(岬地区3件、恩田地区1件)開催。
独自	①市地区担当保健師、生活支援コーディネーター、ふれあいセンター館長、包括で顔の見える連携体制を強める。必要に応じて個別ケア会議を開催する。	恩田6回／年 岬6回／年	恩田4回 岬0回	2か月に一度地区担当保健師、社協、恩田ふれあいセンター館長、包括支援センターで連携の場を設けている
自己評価	理由			
○	地域行事には積極的に参加している。岬地区での支え合い会議が開催できていない。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
・複合化、複雑化した課題を抱えながらも支援が届いていない人を把握し、家庭訪問及び同行訪問など継続的な支援を行う。 ・地域住民の通いの場や支援関係機関等に積極的に向き、潜在的な課題の早期発見、早期支援に努める。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	38機関	新規は5カ所であった。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	29件	権利擁護や死後事務委任、認知症等で地域の問題となっているケースがあった。
独自	①連携して同行した件数	15件／年	31件	包括関連24件その他7件で、総訪問回数は79回だった。
	②研修会に参加	4回／年	8回	総合事業、難病、精神、SC研修等に参加。オンデマンド配信は隙間時間が利用でき、利用しやすかった。
自己評価	理由			
○	目標数値は達成できた。アウトリーチ実施機関の、新規の開拓を行いたい。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業 社会的孤立の課題を抱える人に対して、本人の強みを生かすことができる社会資源を提供し、地域で自分らしく生きがいを持って生活できるように支援する。 ②地域支え合い推進事業 課題解決にあたっては、宇部市社会福祉協議会等地域づくり関係機関と情報共有し、社会資源の創出に向けた取り組みを行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	10件	地域のサロンや健康相談と連携。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	43件	サロン関連の資源紹介や就活に向けて支援者につなぐと言った高齢者への支援が主だった。
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	10件	ほけんや21のモニターに「見守りポイント」を表示、既存のサロンの周知方法としてパンフレット作成に取り組んでいる。
独自	①支え合い会議・個別支援会議に参加する。	10回／年	13回	支援者間の顔の見える関係から支援の輪が広がった。
	②担当地域内外の新たな資源の掘り起こし。	3個／年	18個	アウトリーチ先で、資源開発できた。
自己評価	理由			
○	hope事業がスタートし、SCとしての役割を意識した対応となった。			

令和 7 年度 地域包括支援センター事業計画実績報告書

南部第2地域包括支援センター

1 介護予防に関する正しい知識の普及と実践

事業計画				
・高齢者が介護予防について関心を持ち、普段の生活の中で意識して介護予防に取り組むことができるよう、正しい知識や技術の普及・啓発を行う。 ・担当地区のサロン・教室・相談会等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、高齢者の健康課題の把握と、フレイル予防や認知症予防に着目した支援を行う。 ・高齢者の身の回りにあるあらゆる資源を調査し、本人が望む生活に向けての支援を行う。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①介護予防に関する正しい知識や技術の普及・啓発を行う。（健康教室・健康相談・出前講座・チラシ配布）	各地区6回以上／年	見初16回 神原19回 琴芝18回	神原健康相談、琴芝健康・福祉なんでも相談、見初健康チェックを毎月開催。各地区の団体・集会に介護予防啓発チラシ配布。地域の要請に応じ出前講座を行っている
	②地域でのサロン等の住民主体の通いの場に積極的に関与し、健康課題の把握とフレイル予防や認知症予防に着眼した支援を行う。 （サロン、認知症カフェ等、大衆アプローチによる介護予防）	各地区10回以上／年	見初28回 神原68回 琴芝61回	（神原）きらめきウォーキング、すこやか健康クラブ、新天町ウォーキング、神原健康教室、大関サロン、47区サロン （見初）富田さんちの野菜市《7月まで》、常安寺サロン、40区カフェ （琴芝）オレンジほっとサロン、琴芝げんき会、縁が和サロン、野中お元気会、東山ひまわりの会、西梶返いきいきサロンの支援
	③自立支援型地域ケア会議を開催し、高齢者が自分らしい生活を継続するための資源の選択肢を提供する。	3回／年	6回／年	①見初地区（R7.9.24）（R8.3.16）テーマ：地域課題、地域資源の把握、情報の見える化・発信する方法について 参加者：FC館長、健康増進課、市社協担当職員、包括3職種 ②神原地区（R7.9.25）（R8.3.16）テーマ：（同上）参加者：市民活動課、健康増進課、市社協担当職員、包括3職種 ③琴芝地区（R7.9.25）（R8.3.16）テーマ：（同上）参加者：市民活動課、健康増進課、市社協担当職員、包括3職種

独自	①小規模開催を前提としている「出張・健康と介護予防の相談会」の周知をはかり開催する。	3回／年	3回／年	地区行事やサロンで周知。出張先で相談を受け付けている。
	②10月の開始に向け宇部市短期集中予防サービスの周知啓発を行う。	3回／年	5回／年	3地区各会議・民児協定例会、健康サロンで説明。
自己評価	理由			
○	基本の項目では、毎月開催の地区行事やサロンに参加し、包括や介護予防に関する知識の普及に努めるとともに普及啓発のチラシを配布した。また、地域特性を踏まえた健康課題の把握、啓発は地区担当の健康増進課保健師と協力し行った。独自の項目では、周知活動のその場で相談受付になるケースが多く、結果として個別対応になっている。短期集中予防サービスはチラシ全戸配布のタイミングで地域の会合やサロンで周知を行った。			

2 認知症高齢者支援（認知症バリアフリーの推進）

事業計画				
・認知症になってもできる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らせるよう、相談・支援体制を整え周知する。 ・認知症サポーター養成講座を通して、地域・職域及び学校に対して認知症に対する理解や見守りの重要性を啓発するとともに地域の見守り体制構築の支援を行う。 ・地域の特性を鑑みながら、地域の方々や当事者・家族、プラチナサポーターと話し合いながら、地域になじんだチームオレンジを推進していく。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①認知症の早期の相談や家族の支援体制を強化する。（認知症カフェの開設・開催支援）	4回以上／年	3回／年	認知症カフェ（見初6月・10月・2月）開催
	②主に小学生から働く世代に対して認知症の正しい理解を促進し、共生社会の実現を推進する。（認知症サポーター養成講座等）	50人以上参加／年	159人／年	認知症サポーター養成講座（一般70人、中学校69人、小学生20人）
	③認知症当事者の視点に沿ったチームオレンジの活動を推進する。	各地区3件／年	見初2件（チーム） 琴芝3件（チーム）	5つの既存拠点活用型チームオレンジの継続・開催支援。（内1チームは7月から休止中）
独自	①見守り活動を支援の柱とした「地区丸ごとチームオレンジ」の継続支援。	1件	1件	「見初まるごとチームオレンジ」の活動として、地区3団体合同研修会『自分らしく地域で暮らすために』を開催。
自己評価	理由			
△	それぞれの地域の特性を鑑みながら、地域の方々の主体性をもって、認知症に対する支援体制の構築を行っていけるよう働きかけている。チームオレンジひとつが主催側の高齢化に伴い休止。認知症カフェについては未開催の2地区は地区にて検討中。			

3 地域支援体制の強化

事業計画				
・地域ケア会議（地域ケア個別会議・地域ケア推進会議）を開催し地域の関係機関との連携を図り、個別事例の検討を積み重ねることで、地域課題・自立促進要因を把握・整理をする。 ・地域で行われる行事や会議に参加して、地域課題の解決に向けて協議をする。 ・高齢者の見守りに関わる関係者の連絡会を定期的に開催することにより、高齢者の課題に対する対応力強化や組織横断的な連携体制の強化を図る。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①「地域支え合い包括ケアシステム」の推進（地域ケア会議）	3回以上／年	3回／年	6月12日、10月16日、2月19日に地域ケア会議を開催。
	②地域での見守り支援、課題の把握や解決に向けた協議を行う（地域の会議・支え合い会議・行事に参加）	各地区3回以上／年	見初22回 神原14回 琴芝24回／年	（見初地区） ・民児協定例会12回・情報交換会6回 ・健康福祉部会2回・支え合い会議2回（神原地区） ・民児協定例会12回・支え合い会議2回（琴芝地区） ・民児協定例会12回・支え合い会議12回
独自	①高齢者の見守りに関わる関係者の連絡会を定期的に開催することにより、高齢者の課題に対する対応力強化や組織横断的な連携体制の強化を図る。	各地区2回／年	各地区2回／年	生活支援コーディネーター、地域支援員、地区担当保健師、包括、福祉なんでも相談員で会議を開き、地域の実情や課題について共通認識を得るとともに、支援ネットワークの強化を図る。
自己評価	理由			
○	目標は概ね達成できている。			

4 アウトリーチ等を通じた継続的支援

事業計画				
個別課題と地域課題の発見と支援に努める。 ①地域コミュニティ、地域住民の集いの場、行事に参加する。地域の商店や事業所、住宅に出向く。 ②地域福祉課、健康増進課、包括支援センターの3職種と連携して支援につなぐ。 ③サテライト福祉なんでも相談窓口を、新たに琴芝地区で毎月1回実施する。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①アウトリーチを実施した実機関数	30機関／年	30機関／年	引き続きアウトリーチを行う。
	②アウトリーチにより把握した実相談件数	15件／年	15件／年	引き続き相談の把握に努める。
独自	③アウトリーチにより、新たに福祉なんでも相談窓口を実施したのべ件数	12件／年	12件／年	琴芝地区で新たに福祉なんでも相談窓口を開設
自己評価	理由			
○	地域コミュニティ、集いの場、地域の商店や事業所、住宅に出向き、把握した相談をチームで共有し連携して支援につなげている。			

5 社会参加に向けた支援

事業計画				
①福祉総合相談事業 ・社会参加に向けて、関係機関と連携協働する。・課題を抱える人に、関係支援者と同行訪問して顔の見える関係づくりを行い、本人に寄り添い理解を深める。 ②地域支え合い推進事業 ・関係機関と情報共有し連携協働する。・地域の社会資源の把握と創出に取り組む。				
		指標	実績	取組内容・今後の予定
基本	①社会参加に向け連携した実機関数	15件／年	15件／年	関係機関との連携に努める。
	②地域ニーズ（個別課題・地域課題）とのマッチング実件数	5件／年	5件／年	就職3、イベント2
	③新たな地域資源の創出に向けた取り組みを行った実件数	2件／年	3件／年	健康・福祉相談会を開設 いますぐ食料がない人への支援 地域事業所の健康相談への協力
独自	④社会参加に向けて伴走型支援ケースの実件数	5件／年	5件／年	継続する。
自己評価	理由			
○	社会参加に向けて、関係機関と連携協働して、伴走型支援を行っている。			